



奨学金を支給する条例改正を提案

高校生 月1万2000円

大学生 月2万円

共産党4名と
2名の区議
6名で提出

共産党区議4名(大滝、いのくま、熊田、風見)は、給付型の奨学金制度をつくるため条例案を検討し、まとめました。

議会に提案する前に、各党派、議員に共同提案を申し入れました。その結果、玉木まこと議員、榎本茂議員が賛同し、6名での提案となりました。

内容は、現行の「港区奨学資金に関する条例」を一部改正し、給付型の奨学金を創設するものです。高校生などは月1万2000円、大学生などは月2万円支給します。

現状では、奨学金を借りると、平均的なケースで300万円、多い場合は1000万円もの借金を背負って社会人としてスタートしています。

非正規雇用の増大などで就職しても、収入は不安定で、多くの若者が年収300万円以下の賃金で働いています。

国民の運動の結果、わずかですが国も給付型奨学金制度を始めました。東京都も高校生向けの制度を始めました。しかし、対象者が限られているため、対象から外れれば、進学をあきらめることになります。

そうしたことがないよう、奨学資金に関する条例の一部改正条例を提案しました。議会で可決すれば条例は決定されます。区民のみなさんからも実現へ応援をお願いします。

「加計学園」疑惑の真相究明求める 意見書を共産党が提案

自民・公明などが反対 **まとまらず**

日本共産党区議団は、定例会議のたびに、その時々焦点となっている問題で、国や東京都に対して、意見書(案)を提案しています。

6月定例会では、①「加計学園」疑惑の真相究明を求める。②「新交通ゆりかもめ」にもシルバーパスの適用を求める。③国民健康保険の国庫負担割合の引き上げを求める。……という意見書3件を提案しました。どの意見書案も、多くの区民の賛同を得られるものと確信しています。ところが、港区議会では、自民党・公明党などが賛同せず、まとまりませんでした。

こうした区議会の動きについてもご意見をお寄せください。

高すぎる国保料への苦情・問い合わせ 1982件 寄せられる

二〇一七年度の国民健康保険料の通知が発送された後、十日間で区に寄せられた苦情や問い合わせは千九百八十二件と昨年と比べ三百二十六件増と大幅に増えています。「収入が増えないのになぜこんなに保険料が上がったのか」と言った怒りの声が共産党にも届いています。今年度の値上げ額は平均で七千二百五十二円で平均保険料が十一万八千四百四十一円にもなります。

また、来年度からは国民健康保険が広域化(保険者が東京都)されます。それに伴って、保険料の引き上げが想定されています。

日本共産党は命と健康を守る立場で、保険料一百万円の引き下げ、区一般財源を投入し保険料を引き下げよう求めてきました。

みなさんと力を合わせ、高すぎる保険料の引き下げに取り組みます。

国交省の

羽田新飛行ルートはあまりに危険

港区上空を600メートルから400メートルで飛行



共産党区議団は、定例会のたびに質問してきました。新飛行ルート案を知った区民は「住宅の真上を低空で飛ぶなんて認められない」との声が広がっています。港区の上を低空で飛ぶことで、騒音、落下物、万が一の墜落などの危険があります。

港区上空あたりで、着陸態勢のため車輪を出す可能性もあり、落下物の危険性が心配されます。この間、区や議会からの要請によって、教室型の説明会が高輪、青山・赤坂、港南地域で開催されました。しかし、国交省の説明会の進め方は、対象地域以外の人は参加対象とせず、質問することを認めません。参加者が具体的に質問してもまとまらずに答えていません。

共産党区議団は、①港南地域での教室型説明会を引き続き開催すること。②高輪、青山・赤坂地域でも教室型説明会を再開すること。③未開催の麻布、芝地域で教室型説明会を開催すること。④説明会にあたっては、

区民等を参加対象とすること、質問には具体的に答えること、⑤港区民の合意が得られないまま、国交省が計画をこり押ししないこと。…の5点について、港区から国土交通省へ強く要求するよう質問しました。

区長は、①、②、③については、教室型説明会につきましては、既に実施した高輪、赤坂・青山、港南地域において再度開催することや、未実施の芝、麻布地区で開催することについて、地域からの要望等も踏まえ、引き続き国土交通省へ強く要請する。④、⑤についても要請すると答えました。